

普及活動検討会実施報告書

(石巻) 農業改良普及センター
 実施月日：令和3年9月2日
 実施場所：石巻合同庁舎(石巻市)
 (単位：人)

1 検討内容

No	検討項目
	総合検討 (1) 令和3年度プロジェクト課題(4課題)の進捗状況について N01 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上 N02 組織力強化による農業法人の経営ステップアップ N03 県育成品種「にこにこベリー」の収量安定化 N04 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 (2) 質疑応答・総合コメント

2 検討委員の構成

区分	人数	区分	人数
先進的な農業者	2	生活者	
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市町村	2	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	2

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果(評価のコメント)	普及センターとしての対応方向
プロ課題の進捗状況 課題No.1 被災農地における土づくりの推進による生産性の向上	4.1	<ul style="list-style-type: none"> 生産性を高めるためには、地力向上を図ることが、第一に重要な対策であり、年々増収が見られることは素晴らしい。地域における畜産農家との連携しながらの取組は、まさに、循環型農業の理想的なもの。 有機物循環システムは、農水省が掲げる「みどりの食料システム戦略」に即した素晴らしいプロジェクト。生産性の向上のその先のシステムを構築していくことが、実は、農業生産者をサポートするべくもっとも重要な部分ではないかと考える。 地域資源の循環は継続性の観点からも非常に有効であると思うが、問題なのは地場の堆肥をどのように確保していくかである。畜産においても後継者が減少している中で、堆肥の需給バランスを今後継続していく方策の検討が必要になると思う。 生産性向上という観点から直播を取り入れた作期分散はよいと思うが、地力回復が図られていないほ場が多い場合、作業コ 	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の土づくり実証ほの取組により、堆肥散布による増収効果は対象3法人も実感したところです。今年度も堆肥散布ほ場での生育状況は良好で、改めて堆肥散布の継続が必要との感想をいただいております。 令和2年8月には、被災農地の土づくりとして北上・河北地区の畜産3経営体と対象の1法人による堆肥活用や供給に関する意見交換を実施しました。これにより、令和3年産に向け、試行的に堆肥の供給と散布が始まりました。 令和3年8月も同様に、令和4年産に向けた堆肥の計画供給と利用に関する意見交換を行いました。その結果、畜産3経営体による堆肥の供給、対象2法人による堆肥散布が始まり、地域内有機物の継続的な循環が本格的に始まりました。 地力の低いほ場が多いことから、収量の安定化・向上を最

		<p>ストの低減のみに着目するのではなく、所得向上に向けた取り組みとして進めて欲しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 働き手の確保、人手不足の解決に向け、若い社員が知識や技術を身に付け、地域で活躍できる人材に育つよう期待したい。 地域内で、労働力確保をネットワークでカバーできる仕組みがあれば良いかと思う。 米価が厳しくなると、被災地全般に地力が低いため、特に水稻は収量性の面から経営への影響が懸念される。今後は機械更新もあるので、収支の面も併せて検証いただくと良い。 	<p>優先にして取り組んでおりますが、一方で、大規模土地利用型経営体であることから労働配分にも考慮し、直播栽培を導入しています。</p> <p>ICTを活用した作業日誌から乾田直播栽培の導入による労働配分や所得の向上を図る取組について支援してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、将来的な法人間連携による作業分担や共有化等の可能性・有用性については、人材育成と共に、普及センターの一般活動の中で支援を検討してまいります。
課題 No. 2 組織力強化による農業法人の経営ステップ	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 社内体制整備・指揮系統の明確化・中長期計画の策定を行う際には、体制も一新することなので、合意形成を図りながら進めることを期待する。 中長期計画の前に、社員ひとりひとりの声が入った「ビジョン・ミッション」を作ることが重要と考える。 被災法人だけの課題ではなく、特に農業法人では弱い内部統制整備に係る点を切り口に目標設定、活動を展開している点について評価できる。 経営の多角化（複合経営、長期雇用）が進むと、今回の様な内部統制整備に係るプロジェクト課題が重要になる。 各部門とも強いリーダーシップを持つ人材が必要。今いる社員をうまく動かせる力が必要だと思う。 水田部門と園芸部門の労働力配分についても、さらなる検討が必要。 農業分野の生産管理システムや人事評価のシステムの課題は、どの生産法人も抱えている課題だと感じている。このプロジェクトが汎用化されれば、圏域の法人の一助になると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 社内体制の整備については、昨年度も専門家の指導により部門ごとに進めてきております。新体制になったことを契機に、役員の役割分担の明確化と社内会議や部内会議の開催支援、個人面談の実施等を通して、風通しの良い職場づくりの実現を支援していきます。 中長期計画策定については、これまでの支援で整理してきた水稻・園芸部門それぞれの経費、収量を社内で共有し、従業員数や労働時間を踏まえた計画が必要です。併せて、目標達成には、社員全員が力を発揮できる環境づくりも大切であることを指導していきます。 リーダーとなりうる人材の育成は各部門とも急務となっています。そのためには、しっかりと部門や個人の目標が立てられるよう、会社全体のビジョンの明確化が必要と認識しております。令和2年度に整備した評価制度を活用しながら、社員教育の必要性を指導していきます。
課題 No. 3 県育成品種「にこにこベリー」	3.9	<ul style="list-style-type: none"> 地道な巡回・分析と細やかな栽培指導、環境制御技術の現場活用が結果に結びついたと思う。 栽培環境を整える事により、成果として収量が9t/10aの実 	<ul style="list-style-type: none"> 「にこにこベリー」は、令和2年産から石巻管内で新たに栽培が始まり、一年目は茎折れや多花性という特性により、戸惑うことが多く、収量が伸び悩んだ生産者が多い傾

の収量安定化		<p>績が出ており、施設園芸の技術が大きく変化したと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・培地は、何年も変えずに栽培し、収量が落ちているという事例が多い。今回、培地を変えて収量が伸びたということなので、この点を引き続き指導して欲しい。 ・令和3年産の収穫量が、5～9t/10aと法人によって、ばらつきがあった。法人間の差が少なくなるよう期待したい。 ・栽培技術のアップデートは継続的に必要だと思うので、圏域をあげて、継続的なフォローアップを取り入れて欲しい。 ・この課題の成果は、きゅうりやトマトなど施設園芸全般に必要な技術と思われるので、他品目にも波及して欲しい。 ・販売面で知名度が今一つなので、官民一体となったPRが必要かと思う。 	<p>向にありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年産は特性に合わせた栽培管理と環境制御技術の定着により、多くの生産者が収量を向上させることができました。 ・収穫終了後、株を掘り上げ培地の状況を調査したところ、株の生育状況と収量の関係性を確認し、培地交換が収量向上の一つの要因と判断されました。これらの内容を他の生産者にも情報提供し、収量向上につながるよう継続して支援していきます。 ・園芸生産額の向上においては、当管内の主力品目であるきゅうりやトマトの収量増も重要と考えております。この課題の成果を生かせるよう、検討してまいります。 ・県では、生産者団体をはじめ、実需者とも連携を図りながらプロモーションを行っております。石巻地域においても、関係者が一体となってその魅力をPRする取組に努めてまいります。
課題 No. 4 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着	3.8	<ul style="list-style-type: none"> ・アスパラガスは直売所や市場で人気が高く、「採りっきり栽培」は、2年目の春に目標収量を上げ、太い規格の物を作る技術が課題である。 ・Youtubeの動画配信や現地での栽培講習会など丁寧な指導を行っている。 ・苗代が高いので、採りっきり栽培の経営収支をしっかりとシミュレーションしてほしい。 ・他地域の成功事例など、生産者への情報提供をお願いしたい。 ・アスパラガスを地域の特産品に育てるためには、栽培面積の拡大や販売ルートの確立など、さまざまな課題がある。儲かる農業の先駆けとなり、高収益作物として確立するようお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今春、「採りっきり栽培」の出荷が始まり、新たな課題が見えてきました。 ・一年目の株養成が収量に大きく影響するため、排水対策や霜の影響、病害虫防除対策の徹底が不可欠であること、そして、出荷に必要な収穫量を得るには一定以上の栽培面積が必要であるということです。 ・大規模土地利用型法人では、田植え、麦刈り、大豆播種、野菜定植と労力が重複し、春先の適期作業ができないことが分かりました。 ・アスパラガスの産地化では、採りっきり栽培とパイプハウスでの立茎栽培との組合せを考えていきたいと思えます。 ・当管内でのアスパラガス栽培の体系化や経営収支の整理、輪作体系の検討等を今後行ってまいります。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・4課題とも大変興味深く、面白いと感じた。特に農家の方の期待に応えるには、日々、普及指導員は技術力を向上させる必要があると感じる。普及センターのブログ発信は良い取り組み。 ・プロジェクト課題のうち、3課題は今年度最終年度ということで、それぞれ目標が達成することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つのプロジェクト課題のうち、3課題が今年度終了する予定です。関係機関とも連携を図りながら、それぞれの目標達成に向けて、努めてまいります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・みやぎの食と農に関する県民条例は大変素晴らしいが、本当に計画通りにいっているのか。普及計画も大事だが、県の施策として、基幹産業である一次産業について、国に働きかけるなり、使いやすい施策を出していただきたい。 ・普及活動のお陰で、石巻地方の農産物生産額は、震災前のレベルに戻った。若手の農業者も増えてきているので、人材育成にも力を入れてほしい。 ・様々な面から色々な課題を設定し、成果として発表することはすごく良いことと思います。 ・4つのプロジェクト課題に向けた取り組みの状況について、各担当から説明を受けたが、説明方法について、統一的でなかったことが、多少残念な気がした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいた御意見や現場の声を踏まえ、本庁主務課との連携を図り、農業経営の発展につながるような支援に取り組んでまいります。 ・開催通知後に新型コロナウイルス感染症対策の関係から、当日の日程を大きく変更することになりました。このため、変更部分を補う目的でスライドを活用した説明といたしました。結果として、他の課題と説明の方法が異なることになりました。今後、違和感を生じないように、また、分かりやすい説明に努めてまいります。
--	---	---